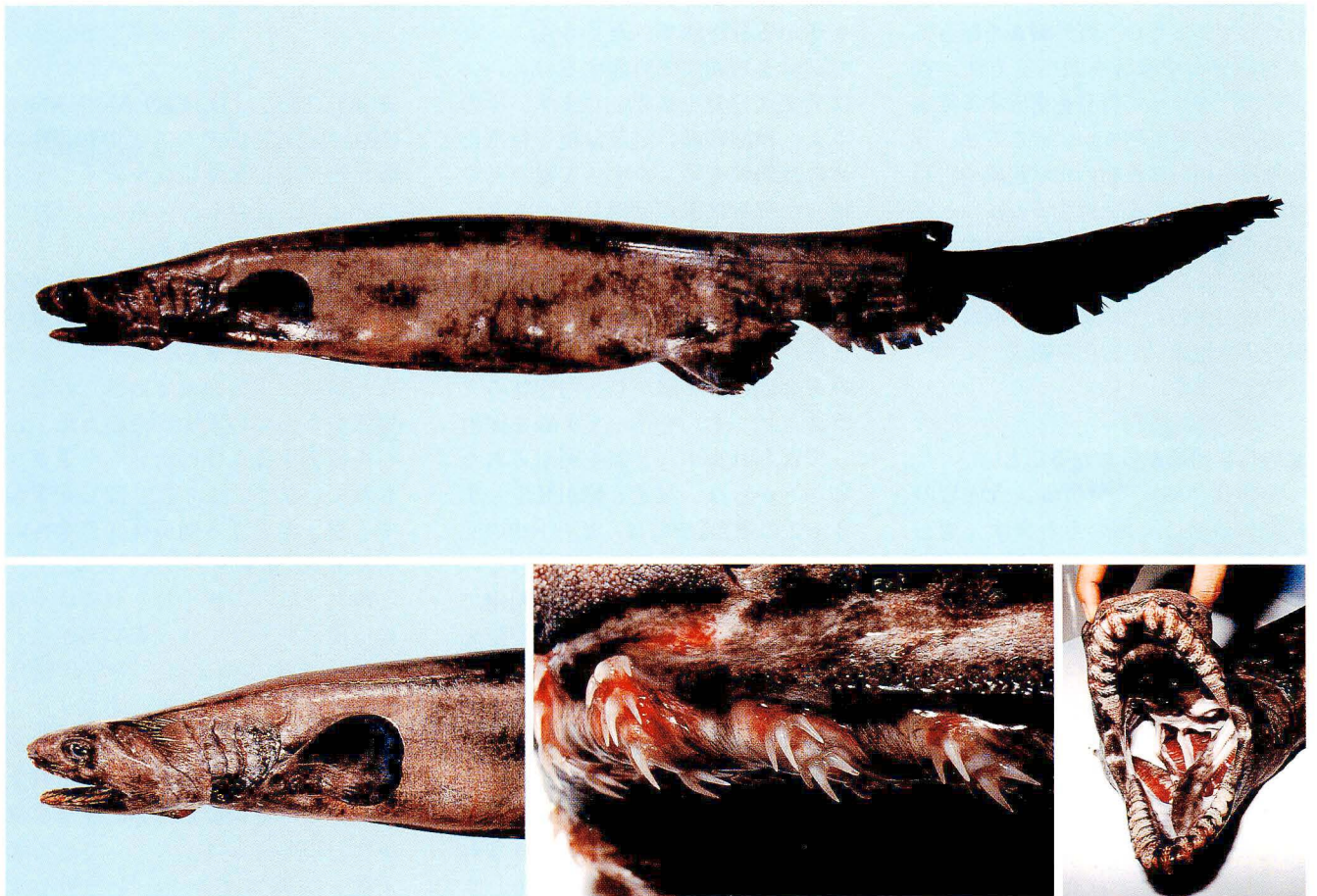


# 自然科学のとびら

Newsletter of the Kanagawa Prefectural Museum of Natural History

Vol. 4, No. 1 神奈川県立 生命の星・地球博物館 Mar., 1998



## ラブカ (カグラザメ目ラブカ科)

*Chlamydoselachus anguineus* Garman, 1884

写真上：全身；下左：頭部；下中：  
上顎歯列；下右：口を開けたところ  
瀬能 宏 撮影

瀬能 宏 (学芸員)

1997年3月11日、静岡県熱海市沖の相模湾で、水深70~80mに仕掛けたヒラメ刺網により、カグラザメ目ラブカ科のラブカが漁獲されました。漁獲したのは遠藤哲也氏ならびに遠藤伸司氏(みどり丸；大熱海漁協)です。このラブカは、全長1806.0 mmの雌成魚で、写真撮影後、当館魚類資料(KPM-NI3458)として登録、保管されました。

ラブカは全世界の海洋に局所的に分布しており、口が頭部の前端に開くこと(他のサメ類では頭部の腹面に開

く)、両顎に先端の鋭い三つ又の歯を備えること、鰓孔が6対あること(大部分のサメ類では5対)、背鰭はひとつで、体は著しく細長いことなどが特徴です。古生代に栄えたサメ類に形態がよく似ており、いわゆる「生きた化石」として有名です。

卵胎生で、イカ類や魚類を主食としており、1000m以深からの記録もある深海魚ですが、駿河湾では意外にも200m以浅から多く漁獲されており、今回の記録はそれを裏付ける結果となりました。